分子科学者のための大学院

分子科学研究所所長　茅　幸二

1966年東京大学理学研究科博士課程修了．同年理化学研究所研究員，1970年東北大学理学部助教授（1973～74年米国ベル研究所研究員），1981年慶應義塾大学理工学部教授，1999年より現職．理学博士

総合研究大学院大学は、1988年に創設されて以来15年という歴史の新しい、博士課程のみで構成される大学院大学である。総研大は、全国の14の共同利用研究機関が、その組織を構成し、神奈川県葉山町に総括センターを持つ、新しい機能と理念から開学された。総研大は我が国の大学院修士課程修了およびその相当者を受け入れ、基礎科学分野の研究リーダーとして育成する目的を持っている。

分子科学研究所は、総研大の構成機関の拠点の一つとして、総研大の数物研究科のなかの構造分子科学専攻および機能分子科学専攻を分担し、分子、および分子集団の科学の実験・理論的研究を通して博士課程の充実した教育および研究指導を行っている。分子科学研究所の大学院担当の教官は総勢57名に及び、各教官はそれぞれの研究分野の先導的研究者として、国の内外で活躍している。一学年の学生定員は２専攻合わせて12名であり、本専攻に入学された学生諸君は、教官の密接な研究指導によって、科学のフロンティアーを体感し、科学の未来を創造する研究者として巣立って行く場が提供されている。平成14年２月段階で、この恵まれた研究教育環境（分子科学研究所）で勉学に励まれている学生諸君の総数は全国の国公私立大学から集った40名（外国人３名）であり、今までに本研究所を卒業された諸君136名の大部分は、大学、研究所といった分野で新進気鋭の研究者として活発な研究活動を展開している。

総研大は、前述のように全国の人文社会系から理系にまたがる異分野の研究科から構成されている。これらの広範な領域の最先端の研究者と、大学院学生が葉山の総合研究大学院大学キャンパスを共通の場として互いに交流することによって、21世紀の新しい科学技術を創造する、広い視野を持った研究者として育っていくことが、総合研究大学院のもつ重要な意義である。この目的のために、全学的規模で、学生セミナー、夏の学校、国際シンポジウムが開催され、学生の視野と興味を広げることに努力が払われている。

本冊子では、分子科学研究所における、構造分子科学専攻および機能分子科学専攻の教育・研究活動を紹介し、学生諸君自らの意志と意欲によって、新しい科学の分野に挑戦する資料の一端とすることを目的としている。環境・資源・エネルギーなどに多くの困難を抱える21世紀を迎え、若い意欲溢れる諸君が、新しい分子科学を創造し、これからの困難を克服する基盤を創造する場として、分子科学研究所は諸君を歓迎する。